

2022年11月期 決算説明資料

 グループ

2023年1月13日

ニッセイ（日本毛織株式会社）

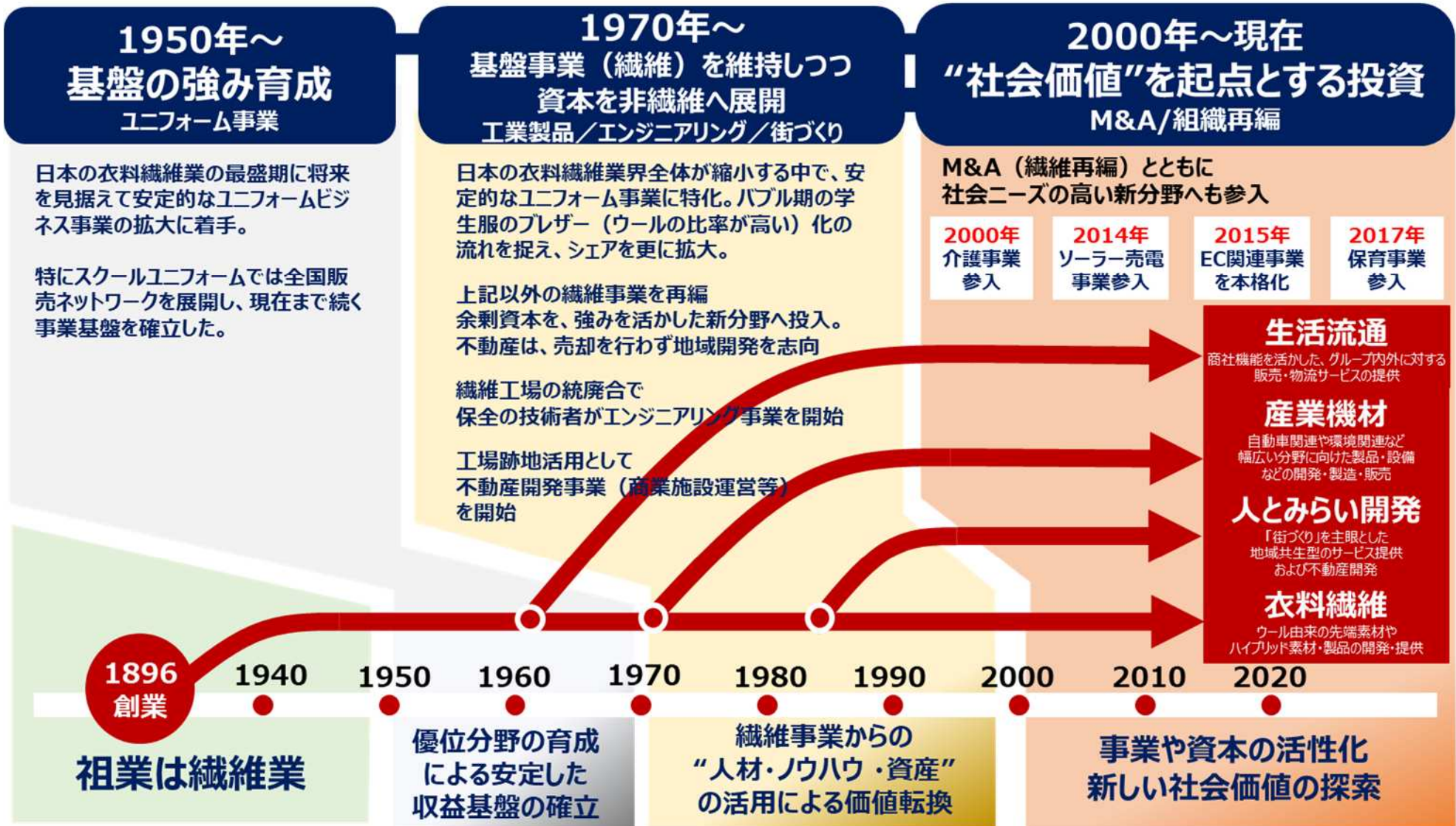
東証プライム市場 3201

2022年11月期 ハイライト

2022年11月期は前期比で増収、営業利益は過去最高値を更新

売上高	1,090.4億円	(前期比 2.3%増 ↑)
営業利益	<small>過去最高</small> 107.0億円	(前期比 8.1%増 ↑)
経常利益	117.1億円	(前期比 19.7%増 ↑)
<small>親会社株主に帰属する</small> 当期純利益	72.8億円	(前期比 12.3%減 ↓)
ROE	7.0%	(前期比 -1.4% ↓)

ニッケグループの歩み 価値転換の歴史



人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジし、持続可能な社会の実現と社会課題の解決に向けて貢献してまいります。

健康・快適への取り組み

- 地域に根差した街づくり、地域密着型SC
- ライフサポート関連事業の拡大（保育、キッズランド、介護、スポーツ）
- 制服の供給を通じた教育環境への貢献
- 環境教育プログラム・教育研究所による教育支援活動
- メディカル関連への取り組み



安心・安全への取り組み

- 安心・安全・快適な製品・サービスの提供
- トレース可能なバリューチェーンの構築
- 技術革新の推進、基礎研究の促進



環境への取り組み

- 天然素材であるウールの特性を生かした環境配慮素材の開発
- 環境フィルターの開発・提供による環境問題の改善
- 太陽光発電の設置による環境負荷の低減
- 回収・リサイクル活動の促進による環境負荷の低減
- 省エネルギー活動の促進、CO2排出量の削減、廃棄物の削減



経営基盤の強化

- コンプライアンス遵守の徹底
- 健康経営の実践
- ダイバーシティの推進・強化 等



ニッケグループの事業領域とサービス

売上構成	事業領域	セグメント内 売上構成	主な取り扱い商品・サービス
衣料繊維 事業 28%	<ul style="list-style-type: none"> ■ ユニフォーム ■ テキスタイル ■ ヤーン ■ その他 	81% 14% 4% 1%	<u>学校制服用素材</u> ／ <u>一般企業制服用素材</u> ／ <u>官公庁制服用素材</u> <u>一般衣料用素材</u> <u>売糸</u> <u>その他</u>
産業機材 事業 23%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自動車関連 ■ 環境関連 ■ その他産業関連 ■ 生活関連 	37% 10% 38% 16%	<u>FA/緩衝材/エアバッグ・シートベルト用縫製糸/モーター結束紐</u> <u>フィルター/エネルギー関連設備</u> <u>OA・家電向け資材/半導体関連部品</u> <u>ラケットスポーツ関連/フィッシング関連/楽器用資材</u>
人とみらい 開発事業 33%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業施設運営 ■ 不動産開発 ■ ライフサポート ■ 通信・新規サービス 	13% 31% 23% 33%	<u>商業施設運営</u> <u>不動産賃貸/ソーラー売電事業/建設事業</u> <u>保育・学童保育/介護/スポーツ関連</u> <u>通信関連/キッズランド/フランチャイズ事業</u>
生活流通 事業 16%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 寝装品・業務用品 ■ 生活雑貨 ■ ホビー・クラフト ■ その他 	23% 49% 18% 9%	<u>寝装品/航空機内膝掛毛布/災害備蓄用毛布</u> <u>生活家電・雑貨/100円ショップ向け雑貨/家具/フィルム</u> <u>スタンプ用インク・スタンプ/乗馬用品/手編毛糸</u> <u>コンテナ販売/保険代理店</u>

※売上構成・セグメント内売上構成は2022年11月期 実績ベース

※売上構成は全社売上高からその他・調整部門売上高3,719百万円を除いた売上高をベースに算出

ニッケグループ会社数の推移



※各年11月末時点でのニッケグループ会社数

主な連結対象範囲・期間の変更

2022年11月期から(株)フジコー、(株)ワイワイを通期連結開始

2023年11月期からサンコー(株)を連結開始予定

会計年度	連結対象	1Q	2Q	3Q	4Q
2021/11期	(株)フジコー				2カ月 ※1
2022/11期	(株)フジコー	12カ月			
	(株)ワイワイ	12カ月			
2023/11期	サンコー(株)		10カ月		

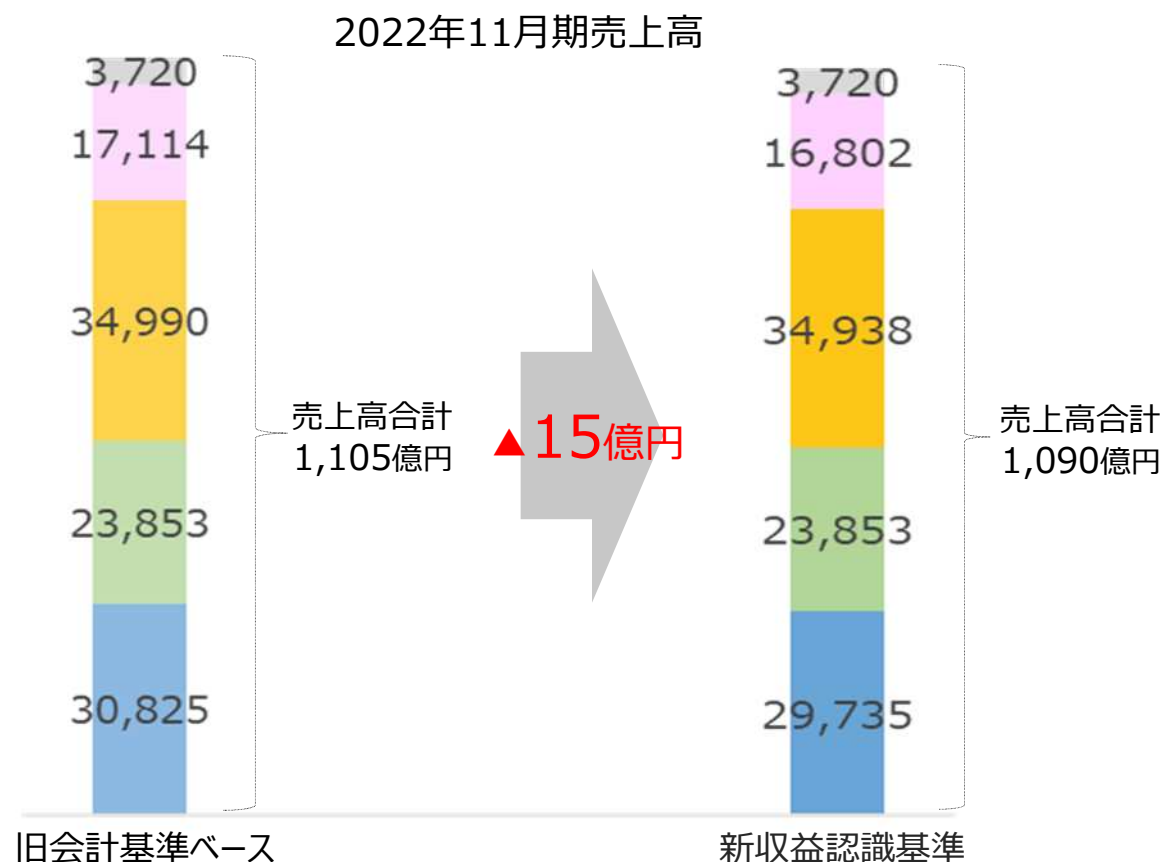
※1 (株)フジコーグループ9社の内、(株)フジコー（単体）、(株)三和フェルトの国内2社を2カ月、他海外子会社7社を3カ月を連結

新収益認識基準適用の売上高への影響

2022年11月期は新収益認識基準適用により、旧会計基準ベース比で、売上高▲15億円の影響を受ける（利益への影響は軽微）

■ 衣料繊維 ■ 産業機材 ■ 人とみらい開発 ■ 生活流通 ■ 本社

（単位：百万円）



1. 2022年11月期 実績	P10～
2. 2023年11月期 業績予想	P21～
3. RN130第2次中計進捗	P29～
4. 株主還元	P41～
5. トピックス	P45～
6. 参考資料	P50～

1.2022年11月期 実績



連結業績概要



衣料繊維、産業機材事業の業績が好調だった事等により、前期比で増収、営業利益は過去最高値を更新。通期業績予想は売上未達も利益は達成。

	実績			前期比増減		2022.7.13 業績予想進捗
	2020/11月期	2021/11月期	2022/11月期	金額	比率	比率
(単位：百万円)						
売上高	104,915	106,619	109,048	2,429	2.3%	94.8%
営業利益	9,048	9,900	10,707	806	8.1%	104.9%
営業利益率	8.6%	9.3%	9.8%	0.5%	-	-
経常利益	12,655	9,784	11,715	1,931	19.7%	111.6%
特別損益	-2,597	1,213	-603	-1,817	-	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	7,121	8,308	7,283	-1,024	-12.3%	104.0%
ROE	7.7%	8.4%	7.0%	-1.4%	-	-

セグメント別業績



		実績		前期比増減	
		2021/11月期	2022/11月期	金額	比率
(単位：百万円)					
衣料繊維事業	売上高	29,872	29,735	-136	-0.5%
	営業利益	2,749	3,234	484	17.6%
	営業利益率	9.2%	10.9%	1.7%	-
産業機材事業	売上高	20,390	23,853	3,462	17.0%
	営業利益	1,235	1,952	716	58.0%
	営業利益率	6.1%	8.2%	2.1%	-
人とみらい 開発事業	売上高	34,059	34,938	878	2.6%
	営業利益	6,115	6,151	35	0.6%
	営業利益率	18.0%	17.6%	-0.4%	-
生活流通事業	売上高	18,685	16,802	-1,883	-10.1%
	営業利益	1,410	953	-456	-32.4%
	営業利益率	7.6%	5.7%	-1.9%	-
その他・調整	売上高	3,612	3,720	107	3.0%
	営業利益	-1,610	-1,584	26	-
合計	売上高	106,619	109,048	2,429	2.3%
	営業利益	9,900	10,707	806	8.1%
	営業利益率	9.3%	9.8%	0.5%	-

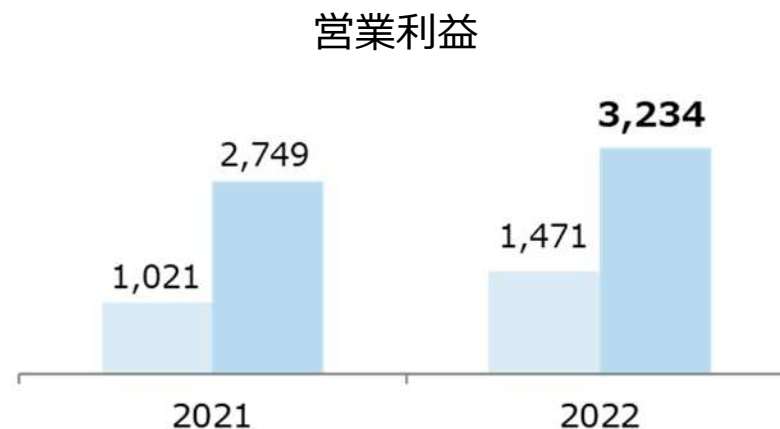
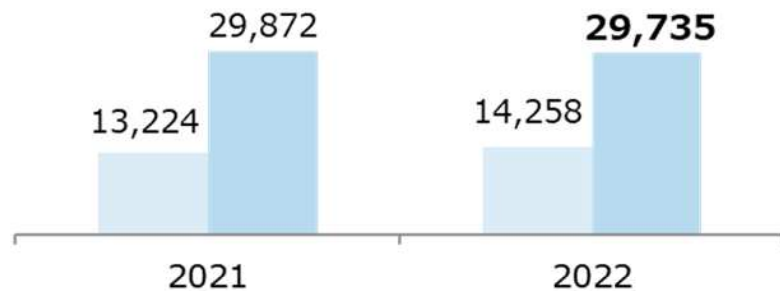


衣料繊維事業

ニッケグループ

売上高 29,735百万円 前期比 ▲0.5%
営業利益 3,234百万円 前期比 +17.6%

■ 中間 ■ 通期 売上高 単位：百万円



<業績概要>

- ✓ 学校制服用素材販売は、前期並みも収益性向上。
- ✓ 官公庁制服用素材販売は、警察向けは前期並みも消防向けが低調。
- ✓ 一般企業制服用素材販売は、コロナ禍の影響による市況悪化が継続し低調。
- ✓ 一般衣料用素材は、ウィズコロナを進める欧米からの引き合いが増加し海外販売が好調。
- ✓ 売糸はニッケ関連の引き合いが増加し好調。

産業機材事業

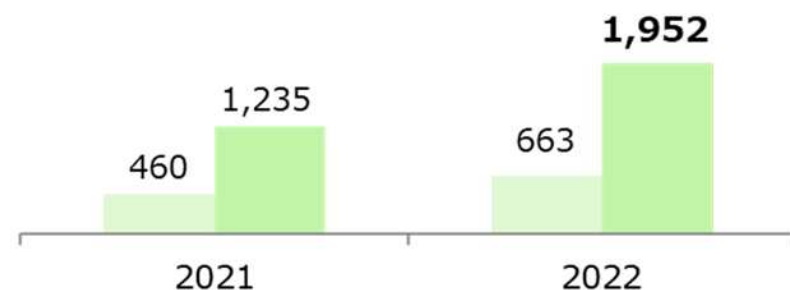


売上高 23,853百万円 前期比 +17.0%
営業利益 1,952百万円 前期比 +58.0%

■ 中間 ■ 通期 売上高 単位：百万円



営業利益

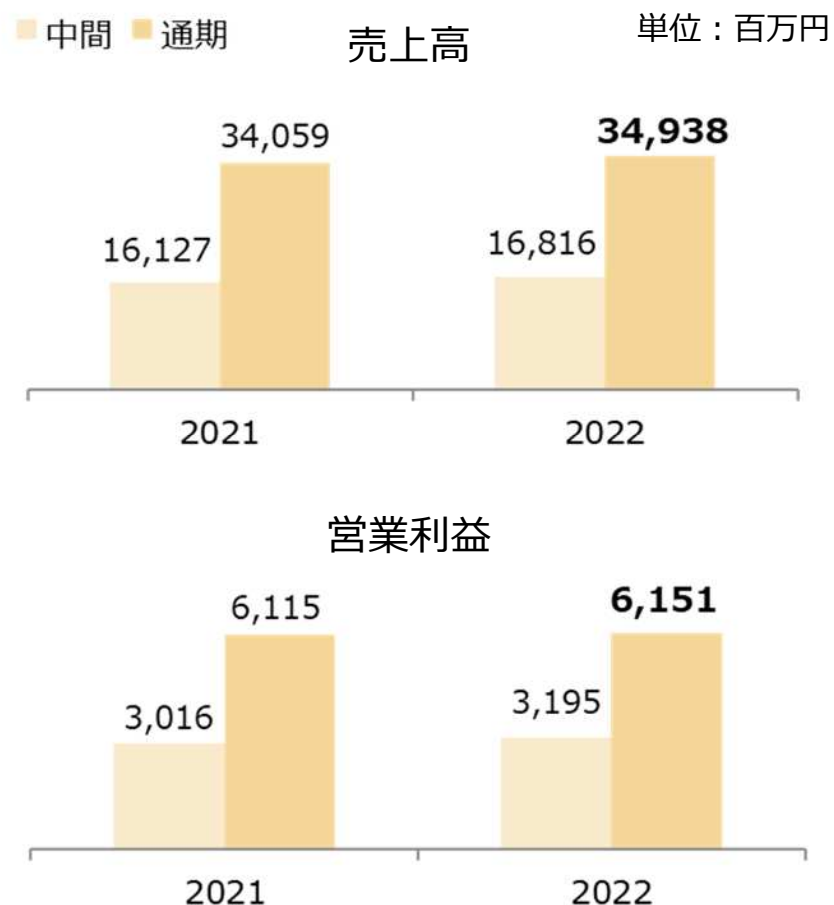


＜業績概要＞

- ✓ 車両向け不織布・縫製糸、結束紐等は、フジコーが連結寄与した影響もあり堅調。
- ✓ 車載電装品製造ラインのFA設備は、前期並み。
- ✓ 半導体関連装置や画像検査装置は、5GやPC等の需要増加で堅調。
- ✓ 環境用フィルターは、フジコーが連結寄与した影響もあり堅調。
- ✓ ラケットスポーツ関連は低調もフィッシング関連は堅調。

人とみらい開発事業

売上高 34,938百万円 前期比 +2.6%
営業利益 6,151百万円 前期比 +0.6%



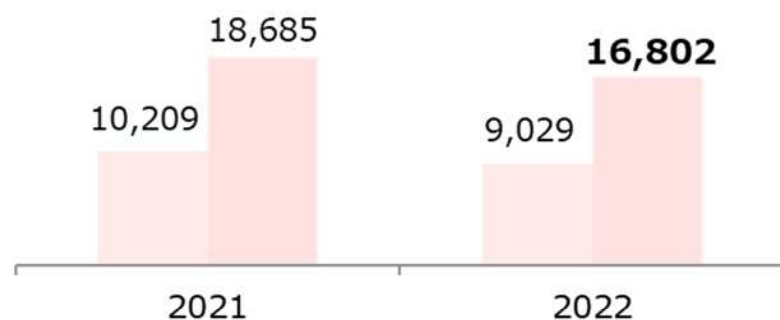
<業績概要>

- ✓ 商業施設運営は、コロナ禍の時短営業等の影響を一部受けるも、コルトンプラザリニューアル効果で堅調。
- ✓ 建設関連は、受注済み物件の完工が増加。
- ✓ 保育関連は保育園の入園者数が増加し堅調。
- ✓ 介護関連は昨年開業した大型施設で入居者数が増加し売上は堅調も、コロナ禍対応で収益性低下。
- ✓ キッズランド事業はコロナ禍で低調だった前期との比較では、利用者数が増加し好調。

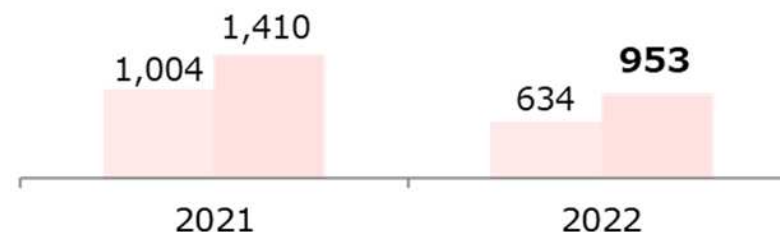
生活流通事業

売上高 16,802百万円 前期比 ▲10.1%
営業利益 953百万円 前期比 ▲32.4%

■ 中間 ■ 通期 売上高 単位：百万円



営業利益



<業績概要>

- ✓ EC向け寝装品・家具販売は低調。
- ✓ 業務用品は、官公庁向けに感染防護衣の販売があった前期との比較では不調。
- ✓ スタンプ販売は前期並みも、スタンプ用インクの販売は低調。
- ✓ EC向け生活家電販売は、巣ごもり需要一巡で不調。
- ✓ 100円ショップ向け等の雑貨販売は、当期より株式会社ワイワイがグループに加わり好調。

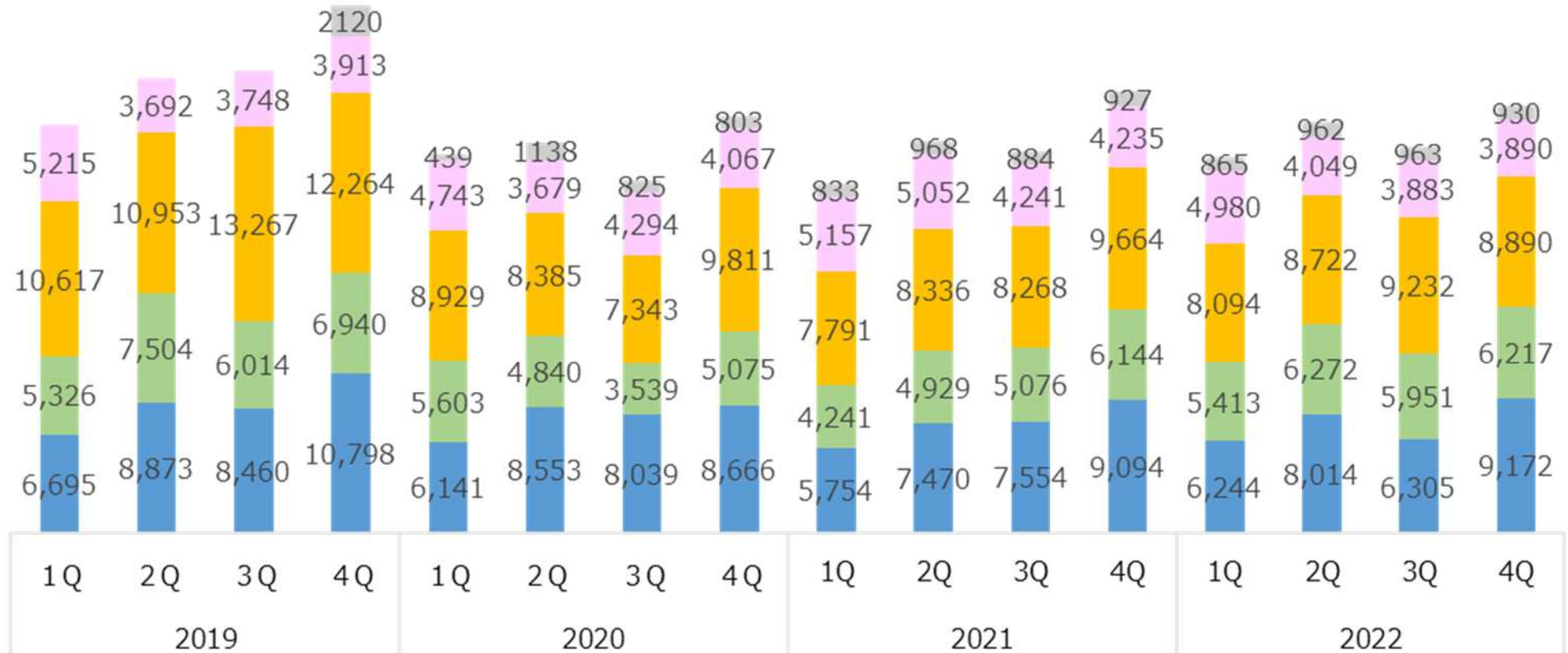
セグメント別 売上高 四半期推移



連結売上高 四半期推移

単位：百万円

■衣料繊維 ■産業機材 ■人とみらい開発 ■生活流通 ■本社

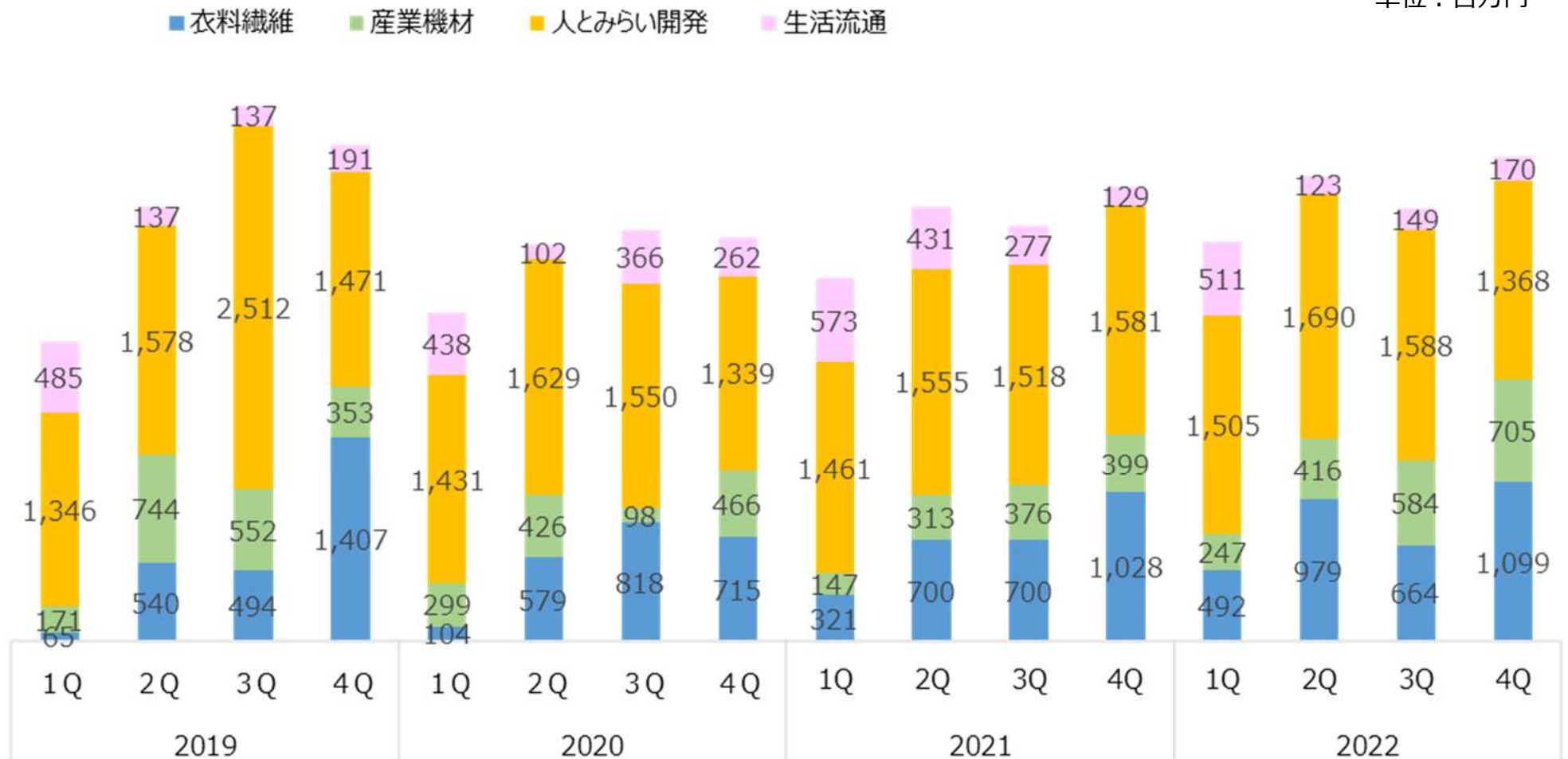


セグメント別 営業利益 四半期推移



連結営業利益 四半期推移

単位：百万円



※その他・調整額は除く

連結貸借対照表／CF サマリー



(単位：百万円)

連結貸借対照表	2021/11	2022/11	増減
流動資産	91,210	88,904	-2,305
固定資産	72,421	74,479	2,057
資産合計	163,632	163,384	-248
流動負債	40,157	38,239	-1,917
固定負債	18,854	17,409	-1,444
負債合計	59,012	55,649	-3,362
株主資本	99,311	101,423	2,111
その他包括利益累計額	3,625	5,206	1,580
非支配株主持分	1,682	1,103	-578
純資産合計	104,620	107,734	3,113
連結C/F	2021累計	2022累計	増減
営業キャッシュフロー	12,404	9,449	-2,954
投資キャッシュフロー	-2,093	-6,878	-4,785
財務キャッシュフロー	-1,483	-9,498	-8,015
現金及び現金同等物の期末残高	41,052	34,363	-6,689

設備投資／M&A推移



設備投資推移

(単位：百万円)



2022年度 主な設備投資実績

投資案件	実績
環境用フィルター中国工場新設	10.9億円
SC関連工事	6.4億円
収益不動産の取得	4.4億円
衣料繊維製造設備合理化投資等	4.4億円

2023年度 主な設備投資計画

投資案件	計画
収益不動産の取得	約 30.0億円
衣料繊維製造設備合理化投資等	約 25.0億円
SC関連工事	約 6.7億円
研究開発実験棟新設等	約 3.1億円
介護施設増設	約 2.8億円

RN130第2次中計 M&A進捗

RN130第2次中計 M&A投資枠	RN130第2次中計（2021～2023）			
	区分	2021/11月期	2022/11月期	2023/11月期
200億円	実施案件	(株)フジコー・(株)ワイワイ	サンコー(株)	随時6～7件の案件を検討

※設備投資額は資産計上額ベース

2.2023年11月期 業績予想



事業環境認識



事業部	事業環境認識（見通し）	
	短期～中期	長期
衣料繊維事業	<ul style="list-style-type: none"> ・円安進行に伴う羊毛原料調達コストの増加 ・製造工場でのエネルギー費の高騰 ・物流費の高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化による国内学生服市場の縮小 ・LGBTQ対応で学生服のプレザー化が進む
産業機材事業	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連（資材）は自動車生産台数減産の懸念は残るも概ね堅調 ・製造工場でのエネルギー費の高騰 ・産業資材原料、機械部材価格の高騰 ・物流費の高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ・EVや自動運転関連需要の増加で自動車関連分野の市場が拡大 ・規制強化が進む中国で環境関連分野の市場が拡大 ・工場自動化、5G対応等のインフラ投資の加速でFA市場が拡大
人とみらい 開発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズランド事業（屋内型遊園地）はコロナによる利用者減少から回復 ・ショッピングセンター等、各施設でのエネルギー費の高騰 ・建設関連事業での建築資材コストの高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護、保育関連市場が拡大
生活流通事業	<ul style="list-style-type: none"> ・EC関連市場の拡大ペースが減速 ・国内外仕入品価格の高騰 ・物流費の高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ・ECがライフスタイルとして定着 ・EC関連市場の競争が激化

2023年11月期 業績予想



事業環境変化の影響を受ける見通しも、生活流通事業の回復等を見込み前期比で増収、営業利益は増益の計画

	実績		予想	前期比増減	
	2021/11月期	2022/11月期	2023/11月期	金額	比率
(単位：百万円)					
売上高	106,619	109,048	121,000	11,952	11.0%
営業利益	9,900	10,707	11,000	293	2.7%
営業利益率	9.3%	9.8%	9.1%	-0.7%	-
経常利益	9,784	11,715	11,400	-315	-2.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,308	7,283	7,300	+17	0.2%

2023年11月期 セグメント別業績予想



		実績		予想	前期比増減	
		2021/11月期	2022/11月期	2023/11月期	金額	比率
(単位：百万円)						
衣料繊維	売上高	29,872	29,735	33,800	4,064	13.7%
	営業利益	2,749	3,234	3,300	66	2.0%
	営業利益率	9.2%	10.9%	9.8%	-1.1%	-
産業機材	売上高	20,390	23,853	30,900	7,047	29.5%
	営業利益	1,235	1,952	2,200	248	12.7%
	営業利益率	6.1%	8.2%	7.1%	-1.1%	-
人とみらい 開発	売上高	34,059	34,938	30,800	-4,138	-11.8%
	営業利益	6,115	6,151	6,250	99	1.6%
	営業利益率	18.0%	17.6%	20.3%	2.7%	-
生活流通	売上高	18,685	16,802	22,000	5,198	30.9%
	営業利益	1,410	953	1,200	247	25.9%
	営業利益率	7.6%	5.7%	5.5%	-0.2%	-
その他・ 調整	売上高	3,612	3,720	3,500	-219	-5.9%
	営業利益	-1,610	-1,584	-1,950	-366	-
合計	売上高	106,619	109,048	121,000	11,952	11.0%
	営業利益	9,900	10,707	11,000	293	2.7%
	営業利益率	9.3%	9.8%	9.1%	-0.7%	-



2023年11月期 衣料繊維事業



	実績		予想	前期比増減	
	2021/11月期	2022/11月期	2023/11月期	金額	比率
(単位：百万円)					
売上高	29,872	29,735	33,800	4,064	13.7%
営業利益	2,749	3,234	3,300	66	2.0%
営業利益率	9.2%	10.9%	9.8%	-1.1%	-

売上・利益
増減要因

- ✓ 学校制服用素材は円安による羊毛原料コストやエネルギー費の高騰により、増収減益の予想。
- ✓ 一般企業制服用素材は機能素材（防刃素材）の拡販やコロナ禍で低迷していた市況の回復等を見込み、増収増益の予想



2023年11月期 産業機材事業



	実績		予想	前期比増減	
	2021/11月期	2022/11月期	2023/11月期	金額	比率
(単位：百万円)					
売上高	20,390	23,853	30,900	7,047	29.5%
営業利益	1,235	1,952	2,200	248	12.7%
営業利益率	6.1%	8.2%	7.1%	-1.1%	-

売上・利益
増減要因

- ✓ 車載電装品製造ラインのFA設備は、製造の効率化や営業力強化による新規受注拡大を見込み、増収増益の予想。
- ✓ エネルギー費・原材料・物流費の高騰による製造コスト上昇を、一部販売価格へ転嫁。



2023年11月期 人とみらい開発事業



	実績		予想	前期比増減	
	2021/11月期	2022/11月期	2023/11月期	金額	比率
(単位：百万円)					
売上高	34,059	34,938	30,800	-4,138	-11.8%
営業利益	6,115	6,151	6,250	99	1.6%
営業利益率	18.0%	17.6%	20.3%	2.7%	-

売上・利益
増減要因

- ✓ 商業施設運営は、コルトンプラザのリニューアル効果を見込み、増収増益の予想。
- ✓ 介護事業は、コロナ禍で収益性が低下した前期との比較では、増収増益の予想。
- ✓ 建設関連は、大型物件の減少で減収減益の予想。
- ✓ 通信・TSUTAYA関連は事業再編や不採算店舗の閉鎖等で大幅減収の予想。



2023年11月期 生活流通事業



	実績		予想	前期比増減	
	2021/11月期	2022/11月期	2023/11月期	金額	比率
(単位：百万円)					
売上高	18,685	16,802	22,000	5,198	30.9%
営業利益	1,410	953	1,200	247	25.9%
営業利益率	7.6%	5.7%	5.5%	-0.2%	-

売上・利益
増減要因

- ✓ サンコー(株)の新規連結が増収増益に寄与。
- ✓ EC向けの生活家電・寝装品・家具等の販売が、低調だった前期との比較では増収増益の予想。
- ✓ 仕入品・物流費の高騰によるコスト上昇を、調達先や輸送手段の見直し等で一部抑制。

3.RN130第2次中計進捗



RN130第2次中計進捗



RN130第2次中計最終年度は、事業環境変化の悪化により中期計画を下回るも、営業利益は過去最高値を更新する見込み

R N 130第 2 次 中 計 (2021~2023)

(単位：百万円)	2021/11月期		2022/11月期		2023/11月期	
	中期計画	実績	中期計画	実績	中期計画	業績予想
	売上高	107,000	106,619	114,000	109,048	127,000
営業利益	8,600	9,900	9,500	10,707	11,500	11,000
営業利益率	8.0%	9.3%	8.3%	9.8%	9.1%	9.1%
経常利益	8,200	9,784	9,700	11,715	11,700	11,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,000	8,308	6,500	7,283	7,800	7,300
R O E	—	8.4%	—	7.0%	7.0%以上	7.0%以上

RN130第2次中計進捗 セグメント別



RN130第2次中計 (2021~2023)

		2021/11月期		2022/11月期		2023/11月期	
		中期計画	実績	中期計画	実績	中期計画	業績予想
(単位：百万円)							
衣料繊維	売上高	32,000	29,872	34,500	29,735	36,700	33,800
	営業利益	2,700	2,749	3,200	3,234	3,650	3,300
	営業利益率	8.4%	9.2%	9.3%	10.9%	9.9%	9.8%
産業機材	売上高	22,000	20,390	24,000	23,853	27,200	30,900
	営業利益	1,200	1,235	1,550	1,952	2,150	2,200
	営業利益率	5.5%	6.1%	6.5%	8.2%	7.9%	7.1%
人とみらい 開発	売上高	33,000	34,059	34,000	34,938	37,400	30,800
	営業利益	5,700	6,115	6,000	6,151	6,650	6,250
	営業利益率	17.3%	18.0%	17.7%	17.6%	17.8%	20.3%
生活流通	売上高	17,000	18,685	17,500	16,802	20,700	22,000
	営業利益	1,100	1,410	1,250	953	1,550	1,200
	営業利益率	6.5%	7.6%	7.2%	5.7%	7.5%	5.5%
その他・ 調整	売上高	3,000	3,612	4,000	3,720	5,000	3,500
	営業利益	-2,100	-1,610	-2,500	-1,584	-2,500	-1,950
合計	売上高	107,000	106,619	114,000	109,048	127,000	121,000
	営業利益	8,600	9,900	9,500	10,707	11,500	11,000
	営業利益率	8.0%	9.3%	8.3%	9.8%	9.1%	9.1%

RN130第2次中計と業績予想の差異



コロナ禍の影響や円安・原材料・エネルギー費高騰等の事業環境変化で進捗遅れ

(単位：百万円)		2023/11月期		中期計画と業績予想の主な差異要因	
		中期計画	業績予想	売上高への影響	営業利益への影響
衣料繊維	売上高	36,700	33,800	<ul style="list-style-type: none"> ・収益認識基準適用 (-) ・海外事業拡大進捗遅れ (-) ・ビジネスユニフォーム受注減 (-) 	<ul style="list-style-type: none"> ・円安の影響 (-) ・海外事業拡大進捗遅れ (-) ・原材料、エネルギー費高騰 (-) ・効率化、コスト削減 (+)
	営業利益	3,650	3,300		
	営業利益率	9.9%	9.8%		
産業機材	売上高	27,200	30,900	<ul style="list-style-type: none"> ・フジコーの新規連結 (+) ・海外事業拡大進捗遅れ (-) ・FA受注回復遅れ (-) 	<ul style="list-style-type: none"> ・フジコーの新規連結 (+) ・海外事業拡大進捗遅れ (-) ・FA受注回復遅れ (-) ・原材料、エネルギー費高騰 (-) ・効率化、コスト削減 (+)
	営業利益	2,150	2,200		
	営業利益率	7.9%	7.1%		
人とみらい 開発	売上高	37,400	30,800	<ul style="list-style-type: none"> ・建設関連受注減 (-) ・キッズ事業新規出店遅れ (-) ・TSUTAY事業の再編 (-) 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設関連受注減 (-) ・キッズ事業新規出店遅れ (-) ・TSUTAY事業の再編 (-) ・エネルギー費、建築資材高騰 (-) ・効率化、コスト削減 (+)
	営業利益	6,650	6,250		
	営業利益率	17.8%	20.3%		
生活流通	売上高	20,700	22,000	<ul style="list-style-type: none"> ・サンコーの新規連結 (+) 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンコーの新規連結 (+) ・円安の影響 (-) ・仕入品、物流費高騰 (-) ・効率化、コスト削減 (+)
	営業利益	1,550	1,200		
	営業利益率	7.5%	5.5%		
その他 調整	売上高	5,000	3,500	<ul style="list-style-type: none"> ・医療関連の開発案件遅れ (-) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応予算等減 (+)
	営業利益	-2,500	-1,950		

ニッケグループの今後の成長ドライバー



- ① 海外ビジネスの拡大
- ② 地域密着と再開発
- ③ EC販売
- ④ フジコーとのシナジー

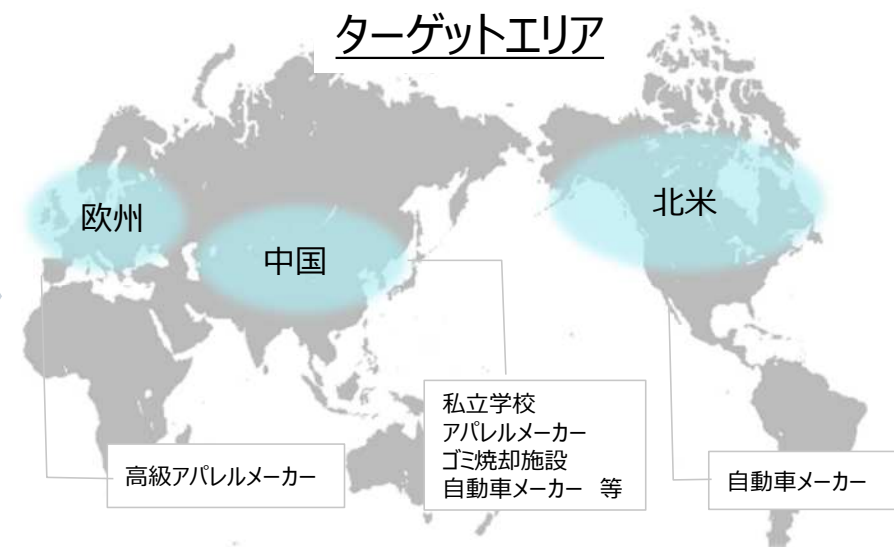
成長ドライバー進捗 ①海外ビジネスの拡大



繊維・産業用資材等の国内市場は飽和・縮小傾向
事業環境（EV化、中国環境規制等）を後押しに海外ビジネスの拡大を目指す



海外
拡販



- ✓ 当期もコロナ禍の影響で海外ビジネス全般に進捗の遅れ
- ✓ 中国学生服は、今後ターゲット市場（私立学校）の縮小が見込まれる等事業環境が悪化
- ✓ モーター結束紐は、上海ロックダウンの影響等を受けるも、中国での受注が拡大

成長ドライバー進捗 ②地域密着と再開発



ライフサポート分野を中心とした地域密着型の複合的な事業展開と
保有資産の再開発で持続可能な社会の実現とともに安定した成長を目指す

ライフサポート関連事業



介護事業



保育事業



スポーツ（テニス・ゴルフ）等

実績

- 2021年3月 **介護** ニッケとて加古川式番館開業（兵庫）
- 2021年4月 **介護** ニッケあすも一宮式番館開業（愛知）
- 2021年4月 **介護** ニッケあすも加古川式番館開業（兵庫）
- 2021年4月 **保育** ぽっかぽっかにつけ保育園朝霧開園（兵庫）
- 2022年4月 **介護** トータルリハビリテーション トリア開業（千葉）
- 2022年4月 **スポーツ** ニッケゴルフスクールユニオン緑が丘開業（千葉）
- 2022年10月 **SC** ニッケコルトンプラザリニューアル（千葉）

主な再開発候補エリア



ニッケコルトンプラザ（南側）
（千葉県市川市）



ニッケ一宮事業所遊休エリア
（愛知県一宮市）



2024年
竣工予定

ニッケ東京ビル
（東京都中央区）



2023年
改修予定

ニッケ神戸本店ビル
（兵庫県神戸市）

- ✓ ニッケ東京ビルは住友商事(株)と共同で建替え事業に着手（2025年以降収益化見込み）
- ✓ 神戸本店ビルは2023年より改修工事に着手予定

成長ドライバー進捗 ③EC販売



ニッケグループにナイスデイ、ミヤコ商事、AQUA、サンコーが加わりEC販売が近年拡大
グループ内の連携強化で今後さらなる成長を目指す

ニッケグループで扱う主なEC関連商材



寝装品



家具



キッチン用品



家電

■ EC販売を主体とする事業の売上高



- ✓ 2022年10月に(株)AQUAと(株)ナイスデイを合併 (シナジー強化・経営の合理化を推進)
- ✓ 2022年11月にEC通販サイトを運営するサンコー(株)の株式を80%取得 (2023年連結開始予定)

成長ドライバー進捗 ④フジコーとのシナジー



M&Aによる成長投資を着実に実施し2021年9月にフジコーを完全子会社化
不織布事業の生産統合とフジコーの経営合理化で収益拡大を目指す

■これまでの経緯

- 2020年 5月 ニッケ・アンビックとフジコーの間で**資本業務提携契約**を締結（30.7%の株式取得）
- 2020年 6月 ニッケの産業機材事業本部長が**フジコーの代表取締役社長を兼任**
- 2021年 1月 フジコー館林工場を閉鎖し、生産を**アンビック**へ移管
- 2021年 9月 ニッケが**フジコーを完全子会社化**
- 2021年12月 2022年11月期会計年度より、**通期で連結を開始し業績も大幅に改善**



羊毛プレスフェルト製品



協業体制を
さらに強化

- ①各分野における人材交流
- ②国内外における製造インフラの相互利用
- ③購買、販売、管理などの協業
- ④研究、商品開発における協業
- ⑤海外事業の推進に向けた協業

- ✓ 2022年度から通期で連結を開始し、協業体制強化に取り組み収益が大幅に改善
- ✓ 2023年度以降はアンビックとの生産統合等更なる合理化を図る

資本効率改善に向けた取り組み



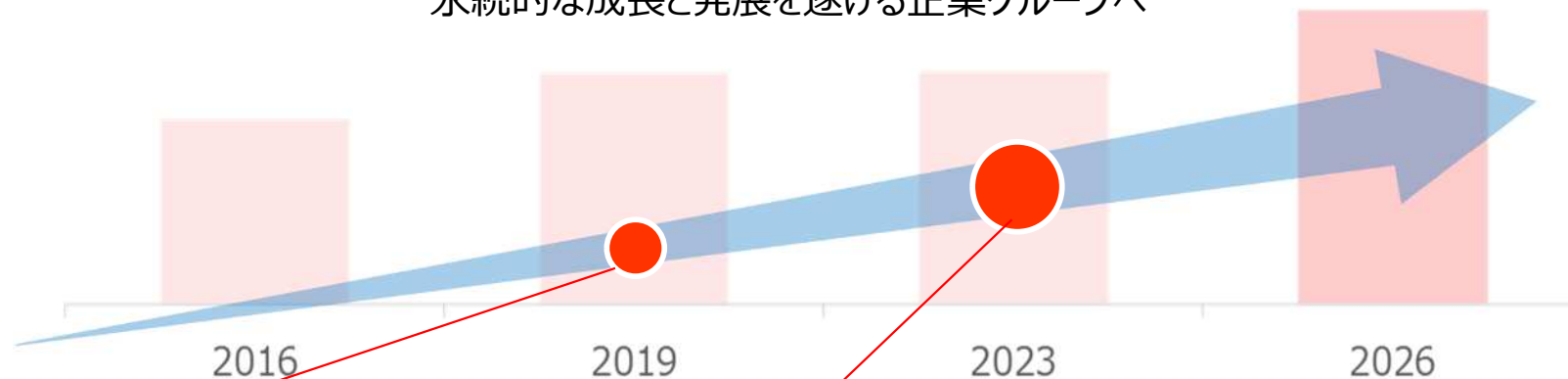
企業価値向上に向けて、さらなる資本効率の改善に取り組み、ROE 8%以上を継続的に達成できる経営体質の実現を目指す

収益性	高収益性事業の拡大	EC関連事業の拡大（2022年11月サンコー(株)の株式を80%取得）
	低収益性事業の縮小	通信関連事業の再編、カプセルホテル事業の撤退 TSUTAYA事業の不採算店舗閉鎖
	低収益不動産の再開発	ニッケ東京ビルの建て替え着手 神戸本店ビル改修工事着手予定（2023年～）
	販売価格の見直し	スクールユニフォームの販売価格改定（2020年4月～） 事業環境変化に伴うコストUPの販売価格への転嫁
	経費削減	コロナ禍における全社的な経費削減
効率性	在庫削減	生産工程のシンプル化による在庫削減 省力化・自動化の設備投資によるリードタイム短縮
	稼働率向上	フジコーとアンビックの生産統合による工場稼働率の向上
財務 レバレッジ	株主還元	利益水準に応じた配当の引き上げ（2022年:中間配当2円増配） 機動的な自己株式取得の実施（2022年:300万株取得）

リニューアル・ニッケ130ビジョン（中長期ビジョン）

今後10年間のニッケグループの目指す方向性、企業像、経営戦略を再構築し、中長期的な企業価値の向上を目指していく（2016年1月発表）

持続的な成長と発展を遂げる企業グループへ



第1次中期経営計画	第2次中期経営計画	RN130の具現化、さらにその先へ
2017～2019年度	2021～2023年度	2026年度、さらにその先へ
ビジョンを具現化するためのフェーズ1と位置付ける。各事業領域の芽を育て、その発展を軌道に乗せる。	RN130へ向けて加速していく3年間と位置付ける。新型コロナウイルスの影響を注視しながら着実に業績を回復させ、2019年に達成した過去最高の売上利益を更新する。	未開の分野に目を向け、「高機能商品」「地域NO.1サービス」の開発と提供へ挑戦し、各事業が描く「みらい生活創造企業」を目指す。

⇒ 2023年度はRN130第3次中期経営計画（2024～2026年度）の策定に着手

R N 1 3 0 の具現化、さらにその先へ

みらい創造室の設立 (2022.12.1)



将来に向けた新規事業の開拓をミッションとした専門部署を新設

1. 組織の目的

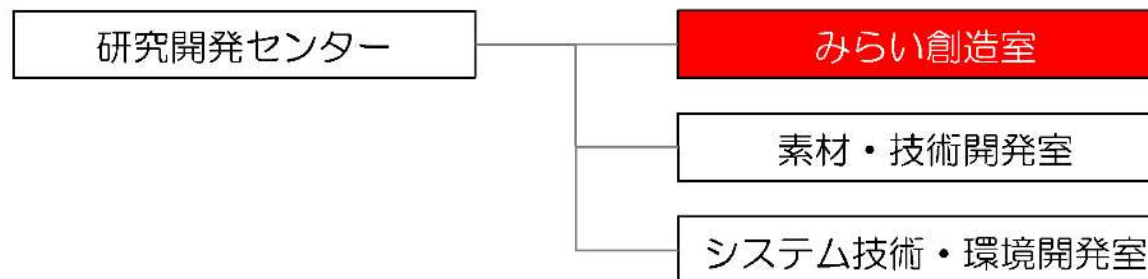
遠い未来の視点から考えるアウトサイドイン発想力を高め、未来シナリオを描くことでイノベーションの推進役として既存事業領域とは異なる新規事業の開拓を目指す。

2. 主たる業務

未来探索（潜在ニーズ探索）、新技術・サービス動向調査（シーズ探索）、社会変化の可視化、新規事業戦略の立案

3. 組織体制

研究開発センター内に設置し、同センター内において既存事業領域の成長分野における技術開発を行う「素材・技術開発室」「システム技術・環境開発室」と、相互に情報を共有する



4. 株主還元



資本政策・株主還元



- ①成長投資と安定的な株主還元のバランスを志向する。
- ②成長投資については、研究開発投資、M & A 投資、設備投資、人財投資など、中長期的な企業価値の向上の観点から内からの成長（設備投資）と外からの成長（M & A）のバランスの取れた投資を積極的に実行する。
- ③株主還元については、安定的な配当政策を継続する。配当性向30%、DOE（株主資本配当率）2%を目安とし、利益水準に応じて配当を引き上げていく。また、自己株式取得を含む総合的な株主還元を充実させる。

1 株あたり配当



2022年11月期は1株あたり年間30円を予定。
2023年11月期も当期と同じく1株あたり年間30円を予想。

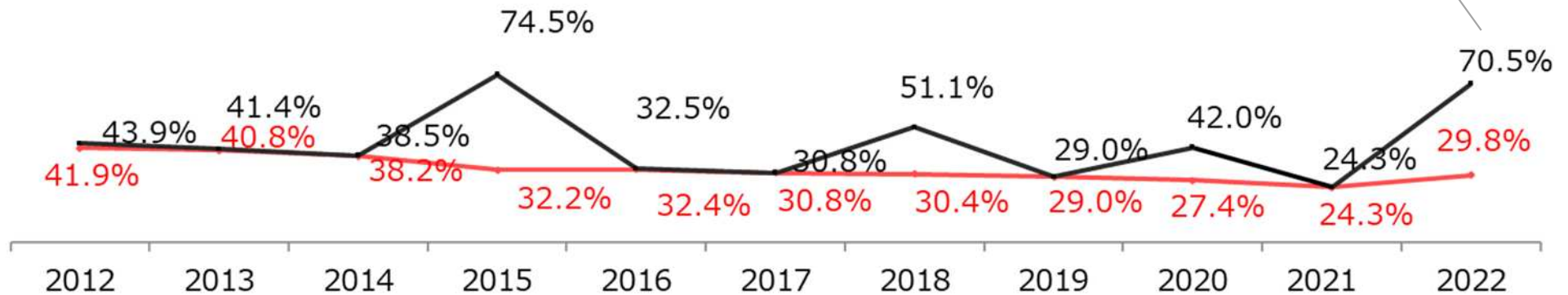


配当指標

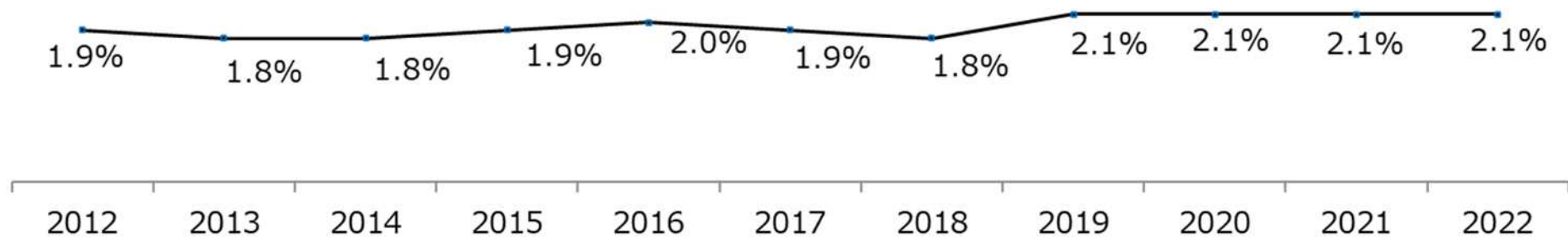


— 配当性向 — 総還元性向

2022年は300万株の自己株式を取得
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 4.07% ※1)



— 株主資本配当率 (DOE)



※1 発行済株式総数は2022年4月12日時点ベース

5.トピックス



サンコー(株)の株式取得に関するお知らせ



EC事業の販売体制をさらに強化

当社は、サンコー株式会社（<https://www.thanko.jp/> / 英文名: Thanko, inc. 以下、「サンコー」）の発行済株式の80%を取得しグループ会社とすることを決定致しました。

当社は、中期経営計画「RN（リニューアル・ニッケ）130」においてEC事業を生活流通事業分野の成長ドライバーと位置づけ、新たな収益の柱とすべく、全世界に向けた物販拡大のための新たなサプライチェーン、バリューチェーンの構築を推し進めております。

一方、サンコーは、家電を中心に各種商品の企画・開発・製造・販売、及びEC運営事業を展開し、「面白くて役に立つ」をモットーに、ネッククーラーや弁当箱炊飯器、自家製焼き鳥メーカー、食洗機ラクアシリーズ等の数多くのヒット商品を生み出してきた、オリジナリティに満ち溢れる企業です。

今回のグループ会社化を機に、両社が力を合わせてより良い商品を開発することで、お客様の期待をさらに上回る価値をお届けし、また海外EC事業の強化により日本のファブレスメーカーとしての存在感を発揮し、ニッケグループの企業価値向上に努めてまいります。



THANKO × ニッケグループ

会社名：サンコー株式会社
所在地：東京都千代田区外神田3-14-8
代表者：山光 博康
資本金：38,000千円
売上高：36.9億円（2022年5月期）

ニッケコルトンプラザ リニューアル



もっと素敵でもっと豊か、新しい出会い空間へ

1988年11月のオープン以来、34年間にわたり地域に根ざしたショッピングモールとしてご愛顧いただいている「ニッケコルトンプラザ」（千葉県市川市）は、館内を一部改装し、新規テナントの導入、既存テナントの移転・改装により、2022年10月22日にリニューアルオープンしました。

リニューアル以降の売上高及び来館者数は、前年比10%増で推移しており、またコロナ前の2019年同月も上回るなどご好評をいただいております。

このリニューアルを機に、これまで以上にお客様のニーズにお応えしていくため、食やギフト、生活をワクワクさせてくれる雑貨やカルチャーを充実させ、豊かな時間を過ごしていただける空間へと進化させてまいります。



KINOKUNIYA entrée



ロフト

TCFD提言への賛同表明



Scope1,2のCO₂総排出量を2018年度を基準年として2030年度に50%の削減を目指します

わたしたちニッケグループは、かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐために、環境保全を企業経営における最優先事項と位置づけ、1993年には「ニッケグループ地球環境委員会」を設置し、研究開発、製造、販売、物流ほか企業活動のすべての面において、早くから省エネルギーやCO₂排出削減、廃棄物最終処分量削減などに取り組んでまいりました。

現在、気候変動影響は酷暑や集中豪雨など身近な生活への脅威となっており、また、IPCC始め関係機関からは気候変動影響の加速、深刻さ、対応の緊急性について度々警告が发せられています。ニッケグループは、その対応はもはや待ったなしの状況にあると考え、今般、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言に賛同を表明することといたしました。

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます”の企業理念のもと、ニッケグループは、今後も気候変動に対する取り組みに一層注力し、また情報開示の拡充に継続的に取り組んでまいります。

TCFDウェブページ <https://www.nikke.co.jp/csr/ecology/tcfid.html>



自己株式の取得終了と消却実施



300万株の自己株式取得と800万株の自己株式消却を実施

当社は、2022年4月12日開催の取締役会で決議した会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づく自己株式の取得について、下記の通り実施しました。

また当社は、2022年9月28日開催の取締役会で決議した会社法第178条の規定に基づく、自己株式の消却について、下記の通り実施しました。

I. 自己株式の取得

1. 2022年4月12日開催の取締役会の決議内容

- (1) 取得する株式の種類 当社普通株式
- (2) 取得する株式の総数 300万株（上限）（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合：4.07%）
- (3) 株式取得価額の総額 36億円（上限）
- (4) 取得する期間 2022年4月13日～2022年9月30日
- (5) 取得方法 東京証券取引所における市場買付

2. 上記取締役会決議に基づき取得した自己株式の累計（2022年9月27日現在）

- (1) 取得した株式の総数 3,000,000株
- (2) 株式の取得価額の総額 2,984,196,500円

II. 自己株式の消却

1. 消却した株式の種類 当社普通株式
2. 消却した株式の総数 8,000,000株（消却前の発行済株式総数に対する割合：9.25%）
3. 消却日 2022年10月7日

6. 参考資料

羊毛原料相場・為替相場の推移について

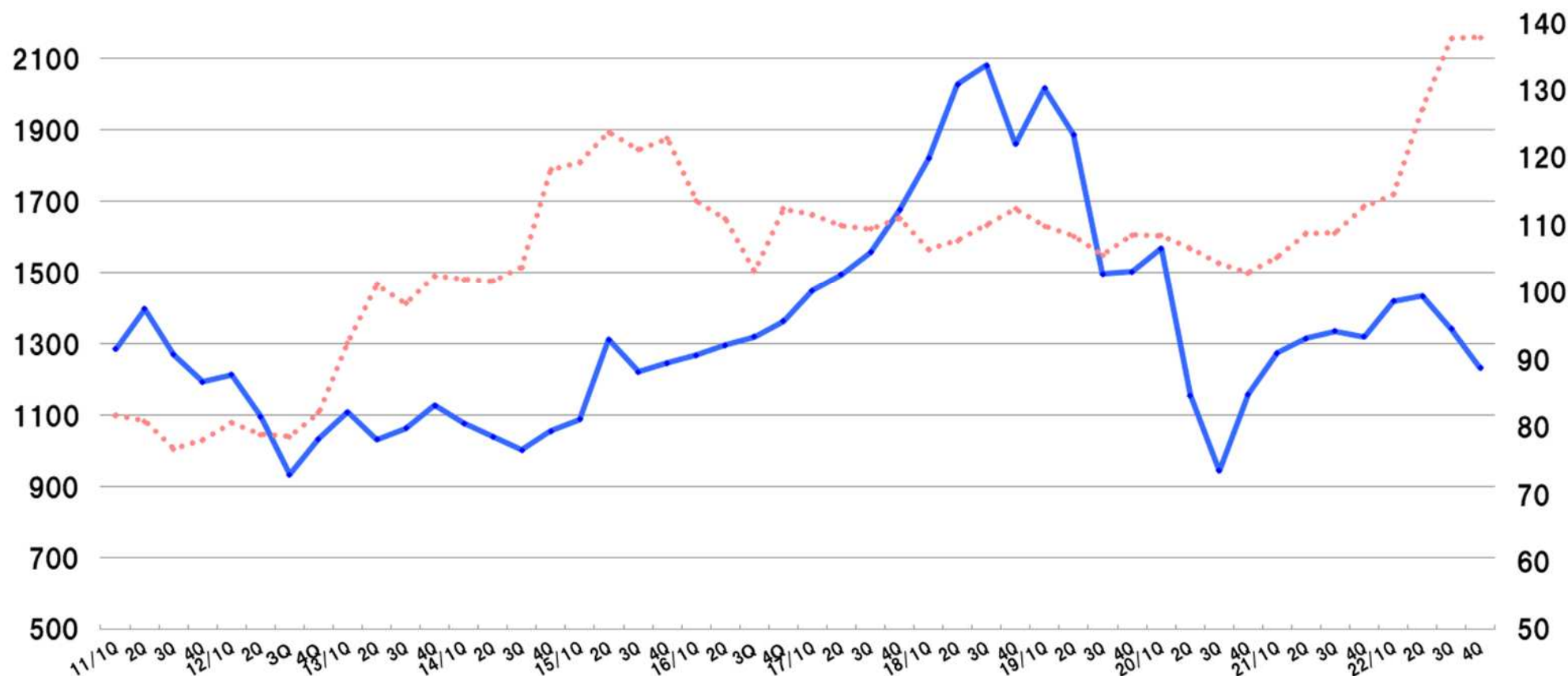
EMI (豪州羊毛東部市場価格指標) 推移

AUC ¢ / kg

— EMI (左軸)

..... US\$ (右軸)

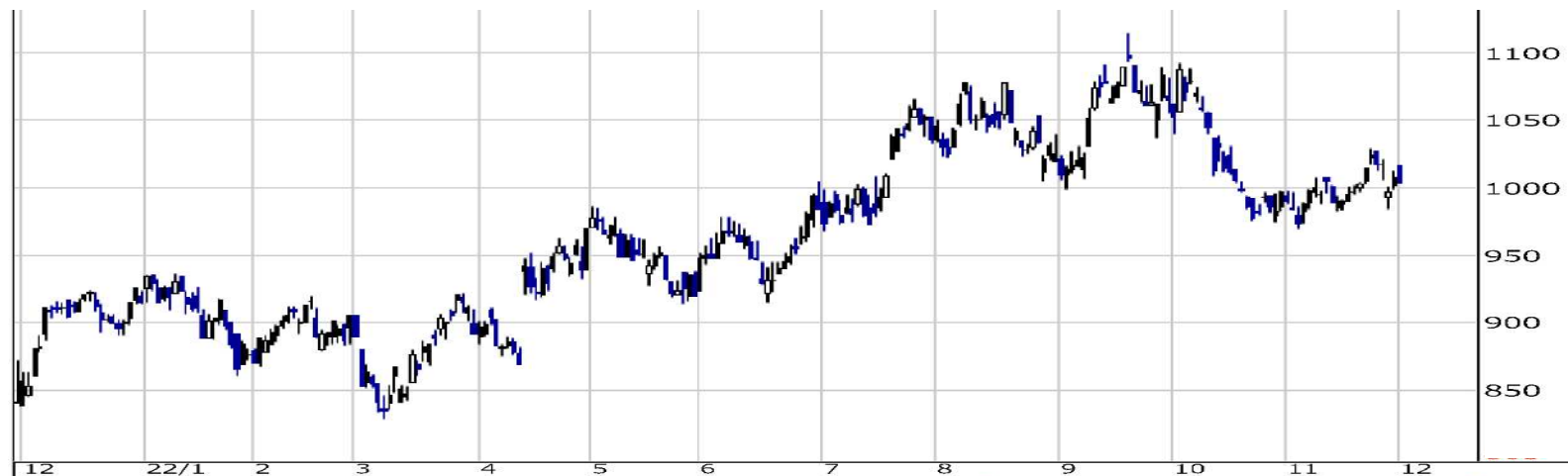
円/US\$



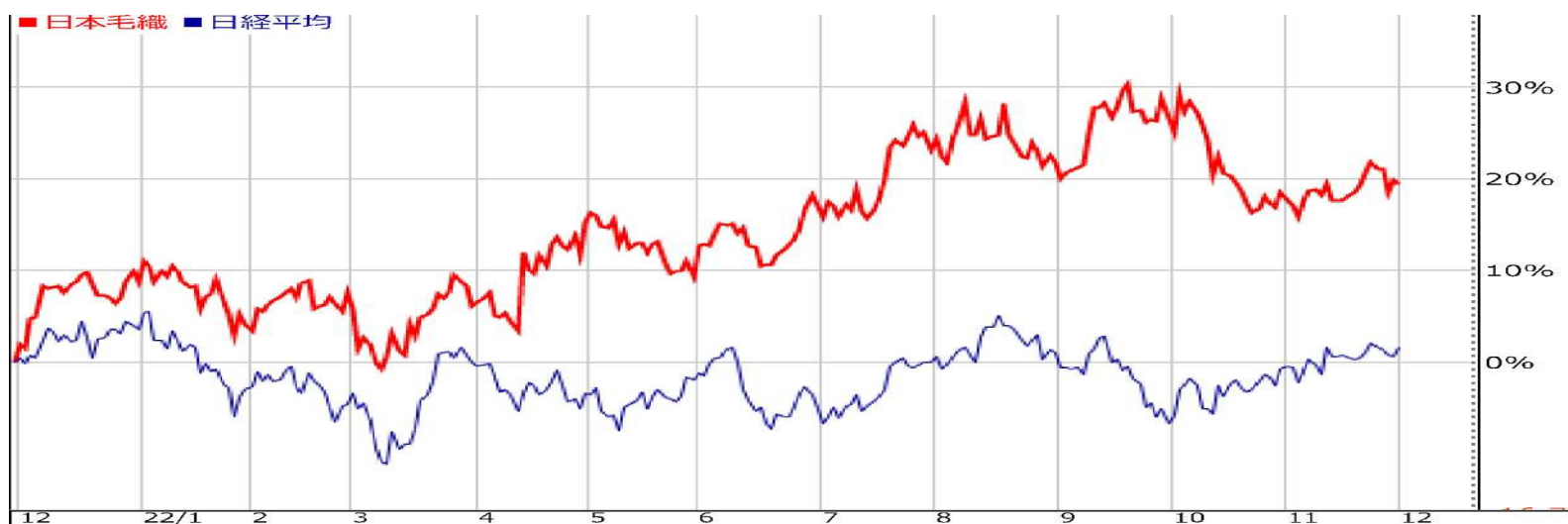
※羊毛原料：衣料繊維事業の主原料として使用

株価チャート 期間：2021/12/1～2022/11/30（直近1年）

当社株価チャート



日経平均比較チャート





本資料の取り扱いについて

本資料中の業績予想、見通しおよび事業計画に関する記述等は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。